



ちきゅう まわ じてん 地球はどうして回って(自転して)いるの

うちゅう かいてん はじ 宇宙のガスやちりが回転を始めた

いま おくねん まえ ぎんがけい なか
今から50億年ぐらい前、銀河系の中で、ガスやちりのできた、せいうん
た。その星雲が、遠くにあったこう星が爆発したときの、しょうげきなどをうけて、いちぶ
おし縮められました。

すると、そのぶぶんが、まわりのガスやちりをひきつけ、えん ばんのようにかいてん はじ
ちゅうしん ちゅうしん おんど あつりよく もの ちから たか たいよう はじ
中心では、温度と圧力(物をおしつける力)が高くなり、太陽がかがやき始めたのです。

ちきゅう かいてん う 地球は回転しながら生まれた

たいよう かがやきは、えん ばんのようにあつ ちりを、と おと
り軽いガスは、さらに遠くへふき飛ばされました。そして、このちりやガスは、たいよう まわ
まわ ちきゅう せい ちい せい
を回りながら集まり、びわく星とよばれる小さなわく星がたくさんできました。

びわく星は、おたがいにしょうとつして、くつつきあったり、こわれたりしながらかいてん
だんだん大きくなって、いまのわく星になりました。

ちきゅう せい おな せい
地球も、ほかのわく星と同じように、びわく星からできたものなので、かいてん う
れてきました。そのときの回転が、いまもつづいています。それで、ちきゅう いま まわ
のです。

たいよう せい おな ほうこう かいてん う
太陽もほかのわく星も、同じ方向に回転していたものから生まれたので、それらのほとん
どは、おな ほうこう まわ
どは、同じ方向に回っています。(監修・国司 真)

